

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	アンケート調査の実施 実行委員会・社会教育体験プログラム 作成委員会の実施結果の評価		3C「夢」club 実行委員会事務局長 3C「夢」club 実行委員会事務局員 3C「夢」club 実行委員会アドバイザー
外部	社会教育体験プログラム作成へのアド バイス・告書作成 実行委員会・社会教育体験プログラム 委員会の運営に対するアドバイス		島根県立大学 准教授 アートディレクター

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>①体験学習と学力、意欲との有意差 教育委員会と連携・協働して3C「夢」clubに参加している児童・生徒の小中学校生活実態調査と島根県学力調査の実施教科平均点との関連を調べる。</p> <p>②保護者アンケートにおける満足度、意識・行動の変化 家庭での子どもの様子や変化を確認する。</p>	<p>①調査分析（子ども） ・意識に関する項目 4項目の指標・・・60%達成 ・生活実態に関する項目 2項目の指標・・・70%達成 ・体験に関する項目 1項目の指標・・・60%達成</p> <p>②調査分析（保護者） 初期値を上回る</p>	<p>2022年 12月</p>	<p>① 教育委員会との協議の結果、児童生徒の生活習慣に関する情報を取得ができないことが判明した、保護者のアンケート調査の方法に切り替えると共に早急に初期値の設定等を行う。</p> <p>② 5回の各教室の開催が終了した時点で指導者、アシスタント、保護者に対して振り返りシートにより、意見等を集約したが、アウトカムを意識したアンケートになっておらず、中間評価以降契約しているアドバイザーにご指導いただきつつ、修正を図る。(R3・12月実施)</p>

<p>①各地域での保護者組織と連絡会の構築 ②保護者の集いの実施回数、参加者数</p> <p>①地域自主組織への周知徹底 ②地域自主組織の生涯学習部と連携・協働の体制づくり</p>	<p>①各地域の保護者組織：あり ②回数：3回 ③延べ参加者数：60人</p> <p>①各町の中核交流センターへのプレゼン 各交流センター1回 計6回 ②地域自主組織のプログラム実施 3か所 土曜日に実施</p>	<p>2022年 12月</p> <p>2022年 12月</p>	<p>現時点では、参加児童生徒の保護者6名と参加していない保護者2名での話し合いを実施した。 コロナ禍の状況下にあつて、各教室の実施は半数の5回しか実施できなかったため、各地区単位(6地域)の保護者会が開催できなかった。</p> <p>①市内の中核の交流センター6か所のうち、加茂町の地域自主組織、三刀屋町の(株)コミュニティケアと、2022年度に向けた協議を実施した。残り1拠点は、大東町の地域自主組織と協議を計画している。</p> <p>令和4年度には、全ての中核交流センターでのプレゼンを終了する。</p> <p>また、当初地域自主組織を中心としたサテライト化をイメージしていたが、事業を進めていくうちに「小さな拠点」の重要性が認識できたため、アウトカムの見直しを行う予定としている。</p> <p>②現時点で加茂町交流センターでのプログラムは確定している 令和4年度に3か所でのプログラムを土曜日に実施する計画である。</p>
--	--	---	---

<p>①意欲と参加回数 ②子どもの自己評価及びスタッフの評価（意欲） ③体験プログラムの多様化と自己の適性 ④発達段階を意識した「体験学習の社会教育プログラム」の作成</p>	<p>①無欠席参加者 70% ②自らの個性の発見 40% ③土曜日 5 コース、日曜日 5 コース 6 教室 計 10 コース 11 教室 ④「体験学習の社会教育プログラム」作成</p>	<p>2022 年 12 月</p>	<p>① R3 年度の体験学習プログラムは、6 教室、7 コースを実施した。無欠席であることが中長期アウトカムにとって必須な項目であるか見直す予定としている。 ②R4 年度は、土曜日 5 コース、日曜日 5 コース 6 教室実施する。 ③R3 年度、3 回の「体験学習の社会教育プログラム」のプログラム委員会を実施した。一定の方向性を決定した。</p>
<p>①講師、プロジェクトチームの特別支援教育や支援の在り方、子どもたちを取り巻く環境等に対する研修の実施 ②多様な主体との連携・協働により講師、プロジェクトチームの質の高まりを目指す。</p>	<p>①年 2 回の研修会（ワークショップ） ②多様な主体のネットワークの構築</p>	<p>2022 年 12 月</p>	<p>① 年 2 回の研修会（ワークショップ）は、コロナ禍により、実施できていない。R4 年度に島根県立大学との連携・協働の中で、研修会を実施する。（2 回） ②多様な主体にとの連携・協働により、2 回の実行委員会においてワークショップを行い、質を高めた。</p>



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
アウトカム指標の収集が出来ているか	開催回数等量的に測れる指標の収集は十分に行えているが、一方質的な指標についての収集は不十分であった。	事業の形を作っていく忙しさや想定以上となったコロナの影響への対応から、当初予定したプログラムを何とかこなしていくことが活動の中心となってしまった。また、当初は事前評価時から参入頂く予定だった評価アドバイザーも今回の中間評価から加わることになった為、初期値の設定に向けたアンケート設定の重要性など認識するのにタイムラグが生じたことが原因と考える。
現時点でのアウトカム目標達成度が十分であるか	指標の収集が出来ている量的な目標に関しては目標値に近い進捗を達成できているが、一部保護者や地域への広がり部分などは若干の遅れがみられる。	コロナの影響が大きく、進捗に遅れがみられる項目も散見された。 今回の評価をもって事業を見直した際に、アウトカム自体の見直しの必要性も感じられたため、より効果的な指標の設定等を行っていく。
対象者個々人に対するケアが十分に出来ていて、居場所が出来ているか	個人情報壁が壁となり、ここの特性に対するケアや引継ぎは十分に行えていない状況である。ヒアリング等から居場所としては一定の効果があるものと思われるが、運営サイドとしてはまだまだブラッシュアップの余地があるものと思われる。	対象者の特性等、現場で適切な対応をするために必要な情報の引継ぎについて、個人情報等が壁となり十分な対応ができていない現状である。 また、元々は教育的観点が強い計画となっていたが資金分配団体コンソーシアムの他団体との交流を通じ、福祉的視点を取り入れることが出来るようになった結果、「発達段階」の捉え方をステップを上るものではなく、対応の指標としてとらえることが出来るようになったため、より良い社会教育の場作りに向けて改善を行っていく予定としている。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しいと自己評価する	<p>予期せぬほどのコロナの影響による進捗の遅れや、新たな視点の導入による改善点が見つかったことから、対象にとってよりクリティカルな効果が得られるように事業計画の見直しを行っていく予定としている。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	1, 何故中途参加者が発生しなかったのか	1, 本事業を必要とする対象者へ十分な情報の提供ができなかったことと、口コミも含めた有機的な繋がり構築が遅れてしまったことが要因と評価する	1, 開催回数は確保できていたが途中参加者の増加ができなかった。保護者会の結成の遅れや学校等への理解の促進が遅れていることも大きな要因であると考えられているが、周知に向けたシンポジウムの開催や当事者会の結成を急ぐなどの対応を行うことで改善を図る予定としている。
	2, 延期・中止が度重なった理由は何か	2, 昨年度の事業中盤まで市教育委員会のコロナ対応に準拠した対応を行っており、必要以上の自粛を行ったことが要因と評価する。	2, 市教育委員会のコロナ対応に住居下対応を行うことで全面的な延期・中止が嵩んでしまった反省から、本実行委員会独自の開催基準を作成した。これにより、全体的な延期・中止ではなくコロナが発生した学校や学年に絞った自粛要請を行い、事業実施の妨げとなる度合いを緩和することが出来るようになった。
	3, 保護者会結成の進捗が遅延した要因は何か	3, 事業計画書のスタッフ間共有が十分でなく、保護者会=PTAという思い込みで事業が進んでいたことが要因である。	3, 本来事業計画書でいう「保護者会」は当事者会及び特性需要の理解促進の為に重要なステークホルダーとなる保護者の有機的な繋がりであるということであったが、スタッフ分業化の弊害として事業計画書の解釈違いが発生しており、保護者会という名称からPTAであるという誤解を生むに至り、既に結成されているもの（目標を達成しているもの）という認識から本指標について重要視されないという現状を産んでしまった。 中間評価にて問題点がはっきりしたため、スタッフ間の認識共有を改めて行ったうえで、より当事者を巻き込める計画にブラッシュアップしていく予定としている。

	<p>4, サテライト構 想遅延理由</p> <p>5, 児童個人の情 報の蓄積が出来 ているか</p>	<p>4, コロナの影響により進捗が 遅れた点と地域自主組織のキャ パシティの問題から本事業の構 想を理解してもらうのに時間が かかり進捗が遅れたと評価す る。</p> <p>5, 参加動向は把握できている が、特性や長所の共有等が不十 分であり、個人情報の壁や各家 庭との連絡・雑談の困難さが要 因であると評価する。</p>	<p>4, コロナの影響から営業スケジュールがずれ込んだこともあるが、 地域自主組織を実際に回った結果、構成年齢の高さや業務が多いこと から、特性や事業に対する理解の促進を図るのが一筋縄ではいかない 現況にあることが分かった。 協力的な意向を示してくれている自主組織には引き続き計画の導入を 図るが、対象へ社会教育の場の確保を図るという意味ではより小さい、 個人の活動などの単位でサテライト的にプログラム実施をする場所を 確保した方が啓発の意味でも出先が増えるという意味でもよいという 結論となったことから、計画の改善を行い、より対象者の人生の質の 向上に資する方向へかじ取りをする予定としている。</p> <p>5, 個人情報壁の高さから公的な情報把握は出来ず、また自団体で取 り扱うハードルの高さも感じている。最終的には個々人にフィットし たプログラムを設定する可能性も高いため、カルテ作成等を検討して いるが、諸々のハードルを並べて検討する段階である。</p>
<p>実施をと おした活 動の改 善、 知見の 共有</p>	<p>1, 開催判断につ いて(コロナ対応)</p>	<p>1, 市教育委員会の判断に準拠 して行っていた為、延期・中止等 が多発したと評価する。</p>	<p>1, 昨年度の反省を活かし、当実行委員会独自の開催判断基準を作成 した結果、学校単位で受け入れ判断をすることとなり、全面的な中止 等対象者に影響の大きな判断になりにくいよう段階的な措置を行い改 善した。</p>

	<p>2, プログラム策定委員会の設置、実施による知見の共有や改善</p> <p>3, 事業実施が困難な際の代替の活動は何か</p>	<p>2, より対象者に適した社会教育プログラムの策定を目的に有識者によるプログラム策定委員会を設けたが、その場で協議された内容、共有された知見を運営サイドで共有することで個人の意識の改善がされたと評価する。</p> <p>3, プログラム策定委員会等有識者からの提案もあり、サテライト構想の小規模化を検討することが出来ていると評価する。</p>	<p>2, プログラム策定委員会の委員に運営母体である実行委員会に参加いただき、知見の共有を行っていただいたことで実行委員会としての質の向上を図ることが出来た。今後は向上した質などを客観的に評価できるよう運営方法まで含めてよりブラッシュアップを図っていく。</p> <p>3, コロナの影響が今後も続くことが見込まれる中で、大きな規模での開催に困難が伴うようであれば、より小規模な開催を検討すればよいのではないかという意見を頂戴した。市民に対する理解の促進やより対象者がケアされる場所が増えることも考えサテライト小規模化の可能性を検討している。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>1, 適切な人材の配置、組織的に補完体制が出来ているのか</p>	<p>1, 適材適所で担当を決め、一人ずつ配材を行っていたが、組織的な連携が十分ではなく、情報の共有には改善の余地があると評価する。</p>	<p>1, 現状でほぼ1分野1担当制を取っており、各員も専業で業務を行っていない為、各分野で問題が発生した際の保管機能が十分ではないと思われる。</p> <p>今後の事務体制の強化策として、事務分掌を作成することによる役割明確化、事務局人員の増名(指導者含め+2名)を図る予定としている。また、上記アウトカム指標が十分に達成できなかった要因である教育委員会との連携強化策としてAD等に入ってもらうなど、組織内外問わず機能強化を図る。</p> <p>改善や情報共有に関しては資金分配団体に改善事項のチェックシートを提出するなど改善方法を模索していく。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

○コロナ禍で事業実施が出来なかった際に対象児童や保護者から「どんな形でも開催してほしい」という声が聞かれた。また、それに合わせてプログラム策定委員会の委員からの提案により代替方法などの蓄積が行われたことから、様々な改善が行われた。

○年度末精算時等、帳票の取り扱い不備や切超過など、当団体内で共有せざるを得ない事態が発生したことが、改善への動きをより強くした。

○地域自主組織内での年齢構成が高く、特性に対する理解を得るには時間がかかることが分かったことも事業を見直すきっかけとなった。

○事業に忙しく、立ち止まって見直すことが出来ていなかったが、今回の年度末報告と中間評価という機会を頂き、不足な点等を改めて見直すことが出来た。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

○資金分配団体コンソーシアム主催による「発達障害」や「教育」等をテーマとした視察で、教育的視点と福祉的視点の違いに気づくことができ、対象者の人生の質に視点を向けることが出来た。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価で洗い出された内容について、1～2か月を目途に改善を行い、反映させた事業計画書を提出予定としている。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.中間評価実施後の事業計画
- 3.活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）